

	努力目標	評価項目	数値目標等	具体的方策	評価	反省・今後の改善点	具体的方策
総務部	学校の実態に即した目標を設定し、教育目標を具現化する。	○教育目標の明確化とその実践	○各学期の確認と共通理解を図る。	○生徒の実態を踏まえ、努力目標を明確にする。	B	○学校説明会、レポートライフで教育方針を提示し、保護者に理解を求めていきたい。 ○グラウンドデザインをもとに、共通実践・共通指導を行う。	○保護者と情報交換を密にして、連携を密にする。 ○始業式や感謝の集い等で教育目標を説明する。
	学習指導要領の趣旨を生かした特色ある教育課程を編成する。	○創意工夫を生かした教育課程の実施	○学習指導要領による教育課程の確認と見直しをする。	○個々の生徒の特性に適した特色ある教育課程を編成する。	A	○教育課程が、昨年度で完全実施になり、実態に即した内容の編成に心掛けていきたい。	○学科・コースの特性を生かした教科・科目の内容を再検討したい。
	生徒の実態に即した効果的な行事を行い、活動内容を工夫する。	○学校行事の改善・充実	○毎月の運営委員会で見直しを検討する。	○生徒の実態に合わせて、活動内容を工夫・実施する。	B	○学校行事に対しては、生徒・保護者・職員ともに評価が高い。「学科の感謝の集い」等を含め、今後も充実を図りたい。	○会議をとおして連携を図り、効率的な運営の実施に務めたい。
教務部	的確な生徒の実態把握と、理解度に配慮した学習指導の実践に努める。	○生徒の理解度に配慮し、楽しく分かる授業の実践と授業評価の実施	○「わかる授業」の教科目標について、5段階評価で4以上の評価を達成する。	○授業評価アンケートを年2回実施し、結果に基づいて「授業改革シート」を作成し、授業改善に努めている。	B	○観点別評価項目を確認することで、生徒自身が学習すべき点をより明確に把握できるようになってきた。しかし、試験の得点と評価が必ずしも一致しない部分があるため、非常勤の先生方とも協議のうえ、評価の割合や付け方について見直しを進めていきたい。	○評価の公平性と整合性を高めるため、試験の点数と評価のバランスを見直し、評価基準を明確にする。非常勤講師を含めた点数配分を策定し、教員間で共有することで統一性を確保する。また、評価結果の根拠を明示し、生徒の学習改善につなげる。
	学習環境を整備し、主体的に学ぶ力の育成に努める。	○各種資格・検定取得の奨励と補習指導の充実及び補習時間の確保並びに模擬試験の実施	○各種資格取得試験の合格率80%以上を目指す。	○各科における資格取得年間計画の作成及び、日々のサポートや放課後の補習等を実施する。 ○定期的に資格取得委員会を実施し、補習の内容等について適切な指導方法や実施時期を随時検討する。	B	○資格取得試験の受験者数増加を促し、各学科特有の資格試験には、定期的な補習実施を求めていく。また生徒の積極的参加を促していく。 ○生徒・教員の意欲的な取り組みがあり、今年度も多くの合格者を出せた。今後も、100%合格達成を目指す。	○検定結果を報告させ、指導・助言にあたる。また、補習内容の充実にも努める。 ○資格取得委員会を学期毎に実施し、各担当者との現状把握・効果的な補習のあり方等、合格率向上に対する共通理解を図る。 ○各担任・学科長・部活
生徒指導部	充実した高校生活を送り、生涯忘れない感動を共有させる。 高校生活を充実させ、生涯忘れぬ感動を享受させる。	○諸行事に対する意欲的な取り組みと、協調性が身についたか。	○学校行事等への参加意識を高め、欠席者0を目指す。	○教職員は、行事に参加している生徒全体の様子を観察し、事前・事後指導を的確に行う。 ○各行事遂行にあたって、その目的意識を身につけさせるように、積極的に取り組ませる。	B	○今年度は、日章学園との交流活動もでき生徒会も刺激を受けていた。 ○生徒会を中心にして行事に取り組む姿が見られ、大きな事故もなく成功に結びつけられた。 ○サッカー部が8年ぶりに選手権予選で優勝した。また他の部活動でも各種大会で空手道・卓球・駅伝・女子バレーが優勝など活躍した。	○全国生徒会に参加し、本校でも取り入れられる物は取り入れられるように努める ○危機意識を常に持ちながら生徒の安全管理に努める。
	突発的な問題行動や自己に対し、臨機応変に対応できる指導体制を構築する。	○関係機関との連携を保ちつつ、生徒の安全を確保する。	○問題行動0を目指し、担任・学科と連携を図る。	○「道義」の徹底を図り、本校生としての自覚と誇りを持たせる。 ○防災訓練等への真剣な取り組みを促すと共に、事前・事後指導の徹底を図る。 ○職員の協力体制を構築するとともに、カウンセリングの有効活用を	A	○あたり前のことをあたり前に出来る生徒の育成に努力し、「道義に徹し」目的・危機意識を持たせる指導に努めていく。 ○問題行動が前年度から減少したが、その未然防止の徹底を充実させる。	○ルール、マナー、モラルを遵守させ、本校生徒としての自覚と誇りを持たせ愛校心を持たせるように努める。 ○校外で実施されるボランティア活動や行事などの案内するように努める。

進路指導部	生徒自らが将来に対する目的意識を持ち、進路を選択・決定して自己実現を図ることができるようにする。	○学年別合同進路指導やホームルーム活動の活用	○進路決定率100%を目指す。	○進路選択の指導助言の充実 ○進路ガイダンスの充実 ○就業体験学習の実施(各学科・コース) ○外部講師による面接指導の実施 ○受験後の変更がないように、事前に様々な情報を提示する。	B	○校外でのガイダンスや職場見学への積極的参加 ○本人の適性や能力、興味、関心にあった進路指導に努めたい。 ○就職・進学100%達成と県内外就職者の増を図る。 ○合格内定後の辞退がないように取り組む。	○校外でのガイダンス・企業説明会の案内を周知徹底し、受験前には職場見学をするよう促す。 ○キャリアパスポートの有効活用と各種検査から見いだせる生徒の適性を本人に伝える。 ○進路指導室の積極的な利用促進に努める。 ○進学者については、掛かり費用を計算するとともに、面談で提示できるようにする。(説明会実施の検討)
	自主的な学習態度の育成を図り、学力向上に努める。	○就職模擬試験、英語・数学小テストの積極的な取り組み	○就職模擬試験、英語・数学小テストの平均点アップを図る。	○年間計画に基づいた計画的な学習を促す。 ○過去の受験反省記録の活用を図る。 ○指定校推薦等でも学力試験が導入されることの周知徹底(大学入試)	B	○学校行事等で各種小テストや就職模擬試験を計画的に実施できなかった。 ○各学年で実施する検査や試験の結果を有効活用し、生徒自身の学力的確かな把握と生徒自身が自分の学力を把握できるように努める。	○学校行事との兼ね合いを加味して、計画を立てる。 ○各種検査や定期テストの結果を語らいの週間等で生かし、生徒自身に具体的な指導ができる面
中高連絡部	各部・各学科の連携を強化し、全職員による生徒募集体制を確立して生徒減少期における生徒募集に努める。	○入学者の定員確保	○各学科定員の100%確保	○教育内容の充実と向上 ○中学校・義務教育学校との連携強化	A	○33年連続で定員確保を達成することができた。 ○全ての学科で定員を確保できるように全職員で危機意識を持って募集活動を展開していく。 ○全体及び各学科における入学者数が定員の1割を超えないようにする。	○私学傾向が高まる中で、他校との差異化を図れるような学科・コースの魅力を高める教育活動を推進する。 ○特色ある各学科の行事を生徒募集の一環として全職員が捉え、SNS等を活用して広くアピールしていく。
	本校の特色ある教育内容及び教育活動をアピールし、本校の教育に対する理解と信頼の浸透を図り、生徒確保に努める。	○一日体験入学参加者の確保 ○視察受け入れの確保	○一日体験入学参加者 1800名の確保 ○視察団体15以上の確保を目指す。	○魅力ある体験入学の実施 ○DVD等を活用し、視察内容の充実を図る。	A	○全体の体験入学参加者数が1572名、学校視察が23団体あり、工夫を凝らして実施することができた。 ○学校説明会や学校視察、一日体験入学を通して、本校の教育内容を広くアピールできるように募集活動を推進していく。	○体験入学の内容検討を図り、参加者の満足度を高められるように各学科との連携強化に努める。 ○広報企画室と連携を深めながら、視察や説明会を積極的に実施し、本校教育活動の周知に努める。
広報企画室	○各学科・コース、部活動との連携を密に図り、本校の特色を理解し、広くPRする情報発信に努める。	○入学者の定員確保と入学生徒の入学理由の調査及び広報活動の検証	○各学科定員の100%確保	○広報企画室職員間の連携強化と効果的広報活動についての検討会の実施	A	○少子化を迎え、私学思考が高まる現状において、より本校の存在を広くPRし、定着させる。 ○特色を有する各学科・コースや部活動の活躍を発信するためHPやSNS、様々なツールの充実を推進する。	○全職員が情報発信への意識を持ち、夢実現に向けて努力する生徒や学校の活動を積極的に発信できるよう呼びかけ、支援する。
	○各学科・コースの定員確保に向け、特色ある活動や実績を広く発信する募集活動を展開する。 ○本校の明確なイメージをビジュアル化するとともにブランド構築を実施させる。	○報道機関への報道依頼、若い目投稿の取り組み ○ウェブページ・SNSや学校案内等の印刷物とデジタルツールを活用した広報活動の展開	○若い目掲載件数10件を目指す。各行事の報道件数の向上 ○県内全中学生に学校案内の配布 ○インスタグラムフォ	○全職員への広報活動に対する協力依頼 ○効果的なウェブページの構成やイメージ発信のためのビジュアル構築の研究と実践	B	○HP及びSNSの情報発信の充実を図るため、情報提供と情報更新を定期的に呼びかける。 ○広報活動における取り組みや情報を全職員に共有し、広報活動への意識定着を図る。 ○100周年に向け、ブランド構築を継続する。	○HPの充実を図るため、HPの構成を検証し、整備・改善を行う。 ○100周年に向けたPR活動の推進に取り組み、ブランド強化に繋げる。 ○中高連絡部との連携のもと、広報ツールの制作及び配布等、より広い展開に取り組む。
特別支援教育部	学習意欲を高め、社会生活及び職業生活に関する基礎学力の向上に努める。	○学習目標や学習過程の明確化と体験的学習の展開 ○ワープロ検定、漢字検定への取り組み	○学習目標の板書及び学習過程の工夫95%以上 ○ワープロ検定4級以上、漢字検定5級以上を目指す取り組み	○学習目標の板書 ○教材教具の活用 ○個別指導の徹底 ○進路達成につながる学習内容の選定	B	○学習目標や教材教具に関して、伝えてはいるが座学・実技等で課題がある。 ○ワープロ検定等の資格取得を推進し、受験に結びつけたが全員合格には至らなかった。 ○本人・保護者の意見を取り入れ、夏季・冬季実習が実施できた。 ○進路実現に向けてもっと早めの取組が必要。	○個別指導を徹底し、生徒の学力の実態を正確に把握し、できるだけ個々に応じた指導を継続する。 ○早めの職業・職種の見直しを行い、職業訓練の学習や現場実習の更なる充実を図る。 ○指導内容・方法に関する共通理解を図り、統一した方針のもとで職業教育を展開していく(専攻科カリキュラムの改善)。
	身近生活を適切に処理しようとする生活態度の育成に努める。	○正しい身なり、持ち物、机の中やロッカーなどの整理整頓の習慣化 ○返事・あいさつの徹底	○共生コース1年生は75%以上 ○その他の学年は85%以上	○SHRでの具体的な指導と点検 ○係活動の充実 ○即時指導の徹底 ○SHRでの唱和	B	○1学年のSNS等の生徒指導上の問題があった。発生を抑制するよう、校則についての指導を徹底させる。 ○個別支援の徹底や集団行動等の基礎的知識・技能・態度の育成は、全教職員で指導する。	○保護者の協力が不可欠で常に信頼関係を培い生徒の意識を高めさせる。 ○職員間の共通理解を図り、評価項目や評価基準を設定するなどして、知識・技能・態度の育成の達成度を分析的に把握し、課題を明確にしていくようにする。